

旧横浜船渠(株) 第1号ドック・第2号ドック

—ドックからひもとく横浜港近代化の歴史に迫る—

[取材現場] 横浜みなと博物館 (神奈川県横浜市西区)

[取材協力者] 奥津 憲聖氏 ((公財)帆船日本丸記念財団、横浜みなと博物館 学芸員)

本連載の第3回では、神奈川県横浜市西区にある国指定重要文化財、旧横浜船渠(株)第1号ドック・第2号ドックに注目します。どのように使用されていたのか、その役割があまり知られていないドックについて、横浜港の近代化に伴って建造され、現在に至るまで保存された理由に迫ります。

——旧横浜船渠(株) 第1号ドック・第2号ドックとはどのような構造物なのでしょう。

構造物の名称にも含まれている「船渠」と「ドック」は同じ意味で、船を修理・検査するための施設です。第1号ドック、第2号ドックともにドライドックとして、船の出入り時は海水で満たし、修理・検査を行うときには排水し水がない状態で使われています。現在、第1号ドック(写真1)には帆船日本丸が係留されており、観光スポットとして有名ですが、普段は水が張られているため、構造物の大部分は見ることができません。一方、第2号ドック(写真2)はドックヤードガーデンと名付けられ、ランドマークタワーと一体的に整備されています。イベントスペースとして活用されているため、水を抜いた状態の石造の構造物そのものを目にするには可能な

ものの、ドックであること

を想像すること

とは容易では

ありません。

二つのドック

が保存されて

いることで、

ドライドック

として活用さ

れていたこと

を理解しやす

くなっていま

す。また、これら

の構造物は現存す

る日本でも最も古

い民営石造船渠で

あり、第2号ドック

は1997年、第1

号ドックは2000

年に重要文化財に

指定されています。

——旧横浜船渠はいつ生まれたので

しょうか。

横浜港は、1859年に開港したの



写真1 第1号ドックと帆船日本丸 (所蔵: 横浜みなと博物館)

ですが、開港から30年近く経過しても大型の客船が直接着岸できる桟橋はありませんでした。地元の実業家にとっては、横浜港が近代化し設備が整えば、多くの船が入り、商売上の利益が上がるため、港の整備は重要な課題でした。そのため、1886年に横浜

正金銀行の原六郎や小野光景おのみつかげなどの



写真2 第2号ドック

横浜の事業家が自ら棧橋を造ることを企図し、計画をイギリス人技師H.S.パーマーに依頼しました。依頼を受けたパーマーは、棧橋だけでの建設費用回収が難しいと考え、棧橋に加えてドックも建設することを進言しました。このような計画が進む中、1888年に国費による棧橋の建設が決定しました。これを受け、原をはじめとする横浜の事業家たちはドックの建設に焦点を絞り、渋沢栄一ら東京の実業家と合同で1891年に横浜船渠(有)を設立しました。



写真3 ドライアップした第1号ドック (所蔵: 横浜みなと博物館)

ところが、ドック着工前にパーマーが亡くなったため、ドック築港のスペシャリストである海軍技師の恒川(つねがわ)が設計・監督を担当し、第2号ドックが1896年、第1号ドックが1898年に竣工しました。また、入渠船の大型化と増加に伴い1910年に第3号ドックが竣工しました。国費により建設された大さん橋とこれらのドックの完成により、横浜港は近代港としての形を整えました。

明治時代にはドックが開業し、船舶の修理や検査を行っていました。その後、第一次世界大戦が終わった頃から横浜船渠(株)として造船業も行うようになり、ドックで修繕しつつ、造船も行うという時代になりました。不況期(りゅうごう)の1935年には三菱重工業と合併し、第二次世界大戦後も三菱重工横浜造船所として営業していました。しかし、立地が関内地区、横浜駅地区といった都市の中心に近く、広大な面積を擁する造船所の敷地を横浜の新たな業務地区として再整備する計画が進められたため、三菱重工横浜造船所は本牧工場と金沢工場に移転することになりました。

そのため、第2号ドックと第3号ドックは1975年に、第1号ドックは1982年に閉渠し、この三菱重工業横浜造船所の跡地はみなとみらい21として再開発されました。再開発の計画の中で、ドックは明治時代の土木構造物であり文化財として貴重なため、保存しながら活用することが決定しました。また、みなとみらい21の再開発と同時期に帆船日本丸を横浜船渠第1号ドックに係留することを目指した誘致活動が行われました。岸壁に着けるのではなく、修繕も可能であるドックで日本丸に係留保存するというのもアピールポイントの一つとした結果、日本丸は横浜に誘致され、第1号ドックに係留保存されることになりました。一方で、第2号ドック

クには水を張らず、横浜ランドマークタワーと一体的に再整備され、イベントスペースとしてよみがえりました。この二つのドックがそれぞれの形で、保存、活用されたことで、第1号ドックでは水が張った状態、第2号ドックでは水を抜いてドライアップした石造りの構造物をそれぞれ見ることが可能になりました。

取材を終えて…

旧横浜船渠ドックは、閉渠されるまでは、船の修繕および造船により横浜港が発展する上で重要な役割を果たし、現在は貴重な土木構造物として残されたことで、横浜の近代化、工業と街の発展を伝えているということが分かりました。すべての構造物は意味があって存在し、残されているということを実感し、街中で見かけるさまざまな構造物に興味を持って調べてみたいと思いました。



(担当編集委員…藤原茜、小澤広直)